

研究テーマ：誰もが積極的に参加できるコミュニケーション活動の工夫

所属：高知市立南海中学校

氏名：山地 里理

R G : J H 1

1 研究の背景

今年度初めて本校へ赴任となり、3年生3クラスの英語を担当することになった。当初は生徒たちも、これまでと全く異なる、私の教授法にとまどいも多かったであろうが、高校受験を目前に控えて、何とかして英語がわかるようになりたいという意欲を持ち、落ち着いた態度で授業にのぞんでくれている。しかし中学3年生ともなると、クラス内での能力差が大きくなり、説明をしたり、教材を準備したりする際、クラス全員が一度に満足できるものを考え出すことに、頭を悩ませている。特に、コミュニケーション活動を行う際、英語に苦手意識を持っている生徒が多く、積極的に参加できるものとできないものがあり、スムーズな活動ができていないことは、大いに気になる。何か手立てがほしい。

2 リサーチクエスチョン

クラス全員が積極的にコミュニケーション活動に参加できるようにするには、どうすればよいか

3 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

T2として一緒にチーム・ティーチングしてくれているJTEに観察してもらったところ、教師の発問に対して一部の生徒しか答えておらず、発問を工夫するべきである。コミュニケーション活動の前の生徒の準備時間が十分でない。という反省点があがった。

予備調査2 英語力を示すデータ

3年生を対象とした中間テスト結果の度数分布表を見ると、10点台～90点台まですべて10名前後と横ばい状態になっており、生徒ひとりひとりの能力が異なることがわかった。

予備調査3 アンケート、授業評価の結果

3年生を対象に、英語および英語の授業についてのアンケートをおこなったところ、得意なこととして「話すこと」を選んだ生徒は1割しかおらず、逆に苦手なこととしては、ほとんどの生徒が「話すこと」を選んでいて、自由記述でも、何とか英語が話せるようになりたいというものが多かった。

予備調査4 生徒の自己評価

1学期をふりかえって生徒に自己評価してもらった結果、低く自己評価されているのが「すすんで発表する」「すすんでALTに話しかける」といった、自分からすすんでおこなう活動であった。

4 仮説の設定

仮説 1 「英語を話す雰囲気を作れるように、授業の導入を工夫すれば、コミュニケーション活動に積極的に参加できるのではないか。」

仮説 2 「コミュニケーション活動を行う前に、文法事項が定着し、活動内容について理解できていれば、不安が解消され、全員積極的に参加できるのではないか。」

仮説 3 「生徒にとって興味をひかれるような題材を用いてコミュニケーション活動を行えば、全員積極的に参加できるのではないか。」

5 計画の実践

3つの仮説それぞれについて、次のような実践をおこなうことにした。

仮説 1 → 英語を話す雰囲気づくりとして、授業のはじめに英語の歌を聞く。

仮説 2 → コミュニケーション活動を行う前に「作戦タイム」として、どうやればよいかを教師やクラスメイトに尋ねることのできる、確かめのための時間を設ける。

仮説 3 → 生徒それぞれがオリジナルで作った英文を用いてコミュニケーション活動を行う。

6 実践の結果

1学期末と2学期末、3年生を対象に、学期をふりかえっての自己評価アンケートをおこなった。各項目とも5段階評価で答えてもらい、平均値（少数点第1位未満四捨五入）を出した。

自己評価表集計結果	1学期	2学期
1 すすんで発音や本読みをして、授業に積極的に参加できた	3.5	3.7
2 すすんで発表ができた	2.6	2.8
3 ALTの先生に自分から話しかけることができた	2.9	3.4
4 友達や先生にインタビュー活動ができた	4.1	4.3
5 英作文のとき、自分で工夫して作れた	3.9	4.1
6 今学期学習した文法が理解できた	4.2	3.9
7 外国の文化に興味をもって学ぶことができた	3.7	4.2

7 結果の検証

ほとんどの項目で少しずつ2学期の平均値が上がっており、全体的に授業に対する生徒の意欲が向上したことがわかる。特に、「ALTの先生に自分から話しかける」「外国の文化に興味をもって学ぶ」の項目の2学期の数値が高くなっているが、生徒の感想にも「ALTの先生とずっと英語で話せるようになりたい」「外国の文化についてもっと勉強したい」というものが多く、この2つの項目に対する生徒の意欲は高い。また「来学期も英語の歌をもっと聞きたい」という声も多く、ウォームアップに英語の歌を導入したことが、全体的な生徒の意欲の向上につながった理由の一つとなったのではないと思われる。

8 成果と今後の課題

アクションリサーチについて勉強不足のまま手探りで計画を立てて実施したため、仮説を実証する方法があまりふさわしいものとは言えないように思うが、コミュニケーションに対する生徒の意欲が少しずつではあるが上がってきているのは、成果であったし、こうしてアクションリサーチに実際に取り組み、その手法が少しでも理解できたことこそ、大きな成果であったように思う。アクションリサーチとは意義深く、価値がある、たいへんうまくできた方法であると感じた。ぜひ今後ももっと勉強して、実践していきたい。